



6畳と9畳の部屋をつなぎ、広々とした空間を確保。一部を吹抜けにして高天井を作っている

かみお・まゆこ

4歳でヴァイオリンを始める。2007年にチャイコフスキー国際コンクールで優勝。以降、世界各地の主要オーケストラ、著名な指揮者と共演。これまで里屋智佳子、小栗ま絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロンに師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス「ルビノフ」(1731年製)。東京音楽大学教授。

小さな音の設計室

× 神尾真由子邸

構造が確実で安心できる施工
家具や植栽で整えるインテリア空間

——ヴァイオリニスト・神尾真由子さん

毎週のようにリサイタルやオーケストラとの共演、テレビ出演などの演奏活動、そして東京音楽大学教授としてのレッスン・業務など多忙な日々を送る。この4月に転居し、新しい「音楽室」を設計。いや音楽室から家を考えてと言った。設計・施工を担当した「小さな音の設計室」代表・小笠原清隆さんと共に訪ねた。

今年2026年、転居した際に音楽室の設計・施工を「小さな音の設計室」に依頼したヴァイオリニスト・神尾真由子さん。前の家も現在の代表・小笠原清隆さんが施工を手掛け、その信頼も厚い。「級建築士で技術や説明もしっかりしていて安心」と言う。

「二戸建てで庭のあるところ。そして音楽室は広さが欲しいということが条件でした。1階にグランドピアノが置けることも必須です」

夫はピアニスト(ミロスラフ・クルティシエフ)のため自宅の練習室にコンサートピアノを置くのは必須だ。「もう少し広い音楽室が欲しい」という夫婦の意見、そして長男が鳥を育てていることが今の家に移るきっかけだった。鳥は鶉で、卵から孵ったヒナを育てたところ育ち、増えて現在は13羽。それまで子ども部屋で同居していたが、それも限界だったというなかなかユニークな理由で転居を決めた。

「もともとあった二部屋をつないで大きな二部屋にする、というのが音楽室を作る上で大きな課題でした」と神尾さん。セミコンサートピアノを



厳選した家具で落ち着いたインテリアを創出

演奏会情報

神尾真由子&萩原麻未 デュオ・リサイタルツアー 2026

9月5日(土) 三島市民文化会館 / 9月26日(土) 東大和市市民会館
ハミングホール / 10月3日(土) 浦安音楽ホール / 10月4日(日) 仙台クラシックフェスティバル / 日立システムズホール仙台 / 10月9日(金) 香川県民ホール レクザムホール / 10月11日(日) ザ・シンフォニーホール(大阪) / 10月12日(月祝) 栄区民文化センター リリス(横浜) / 10月31日(土) 青葉区民文化センター フィリアホール(横浜)

◎プログラム [A] フランク: ヴァイオリン・ソナタ
◎プログラム [B] サン＝サーンス: ヴァイオリン・ソナタ第1番
【共通】サン＝サーンス: 組曲《動物の謝肉祭》より(白鳥)、キューイ: オリエンタル、クライスラー: 中国の太鼓、サラサーテ: ツィゴネルワイゼン 他

【問】KAJIMOTO 03-3574-0969

夫はピアニスト(ミロスラフ・クルティシエフ)のため自宅の練習室にコンサートピアノを置くのは必須だ。「もう少し広い音楽室が欲しい」という夫婦の意見、そして長男が鳥を育てていることが今の家に移るきっかけだった。鳥は鶉で、卵から孵ったヒナを育てたところ育ち、増えて現在は13羽。それまで子ども部屋で同居していたが、それも限界だったというなかなかユニークな理由で転居を決めた。

「もともとあった二部屋をつないで大きな二部屋にする、というのが音楽室を作る上で大きな課題でした」と神尾さん。セミコンサートピアノを

配置し、更にヴァイオリンを自由に弾けたり仕事ができたりする空間が必要だった。

「いくつかの業者さんに設計を依頼しましたが、そういった課題を明確に解決してくれたのは小笠原さんだけでした」と工事を依頼した経緯を語った。

新築で建てるという選択肢もあったのでは、という疑問に対しては「新しいものをあまり信用しておらず、古いものを直して使い続ける方が良い」という精神を大切にしているという。中古の住宅をリノベーションし、生活に必要な環境を作ることは理に適っているようだ。

壁を取りはらい二部屋をつないで一部屋に改造し音楽室にした。木造家屋は小笠原さんの得意とするところだ。床の強度や柱の位置などといった構造的な問題は、小笠原さんの技術と経験によって解決し、写真のような広々とした空間が表出した。

「お客さまがその空間でどう過ごしたいか、で内装なども変わりますね。神尾さんからは、シンプルで落ち着いた色合いの内装というオーダーでした。ただ、

家具やカーテンに関してはこだわりの持ちで、むしろそれらに合わせて内装を決めていきました」と小笠原さん。

防音に関しては小笠原さんが主導権を持ち、「近隣住戸に近いこともあり、活かす窓、寒さなどこちらの設計意図を伝えて、より安全側の遮音性能を確保させてもらいました」と語る。

気になる「響き」は「練習室なので抑え目」だ。絨毯やカーテンを考慮して吸音計画をしており、満足な仕上がりにという。

広い空間に落ち着いた空気感がある。ここから美しい音楽が生まれる。



神尾さんと小笠原さん
【問】株式会社小さな音の設計室
〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-26-9
第2M.Y.T.ビル8F オクターブハウス内 池袋
オフィス TEL. 03-6821-6245
<https://chiisanaoto.com/>

〈PR〉